

馬法礼

小笠原

和装本

ケ 5

44

97



海軍の発展を期す

海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す

海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す

海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す
海軍の発展を期す

一 徳也いんたしんを徳とて徳と梅と柳と一
徳と一

一 徳と今とるまふと徳と一徳と一

手ぬと徳とるまふと徳と一

一 徳と今とるまふと徳と一徳と一

徳と一徳とるまふと徳と一徳と一

徳と一徳とるまふと徳と一徳と一

徳と一徳とるまふと徳と一徳と一

徳と一徳とるまふと徳と一徳と一

徳と一徳とるまふと徳と一徳と一

一 徳と今とるまふと徳と一徳と一

徳と一徳とるまふと徳と一徳と一

一 了りたるはるるはるの馬行の事と云ふは今も此の事と云ふ

時とて先ず此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

かゝる事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

一 馬と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

手計の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

物と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

一 馬と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

手計の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

物と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

かゝる事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

一 馬と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

手計の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふは先づ此の事と云ふ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical or religious document. The text is written in black ink on aged paper. Several characters are highlighted in red ink, possibly indicating specific words or corrections. The script is dense and flowing, characteristic of a historical cursive style.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in black ink on aged paper. Several characters are highlighted in red ink, possibly indicating specific words or corrections. The script is dense and flowing, characteristic of a historical cursive style.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on two pages of aged paper. The script is dense and flowing, with some red ink markings interspersed throughout. The text is arranged in approximately 10 lines per page, written from right to left. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

いふはるのこゝろに

死をうらむるは死絶するに似て

一はとてなすこゝろに

舞臺の他は死絶するに似て

舞臺の他は死絶するに似て

舞臺の他は死絶するに似て

一はとてなすこゝろに

舞臺の他は死絶するに似て

舞臺の他は死絶するに似て

舞臺の他は死絶するに似て

忠孝堂長持

日吉殿長持

日 大連寺より

大連寺の御子合り傳言年子可有

御子可有

大連寺の御子可有

大連寺の御子可有

大連寺の御子可有

伊左衛門より

石川守平より

加藤徳三より

子田の御子可有

大連寺の御子可有

大連寺の御子可有

神ノ公馬法礼書

一馬ヲ率出掛御目様之事乗方ノ手綱ノ

水附際ニテ輪ヲ一ツ取左手ニ持右手ニテ左ノ

水際ニ取御前ニテ馬足ヲ踏ミ揃サセ我石足ヲ

踏出初ニ正面ヲ見セ次ニ乗方次ニ尾先ヲ見

セ本ノ如ク押戻シ乗方ノ見ユルヤウニ引込ニ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

凡ハ御所望ナケレハ見セヌモノ也能ク心得
一馬受取渡ノ事右ノ引手ニ輪ヲ一ツ取左右
ノ手綱ヲ左手ニ持右手ニ手綱ノ末ヲ取馬シ
右ニテ我背シ馬ノ肩ニ當テ渡スヘレ只取請
取人右手ニテ手綱ノ末ヲ取左手ニテ引手ノ
輪ノ処ヲ取也手綱ヲ取時ニ上手下手ノ礼

右貴人御座ノ凡ハ貴人ト馬ノ間ヲ通ルハカ
ラス馬ノ後ヨリ参リ渡ス人ノ右ノ向ヘツ差寄
ナリ請取テハ両手綱ヲ分テ左右ニ輪ヲ取馬シ
引出スヤウニレテ左突廻レ中間ヘ渡ナリ馬ニ附来
ル事^馬指ハ先ヘ返スナリ又鼻草添来ル也然ル故
ニ鼻草錢トテ先ヨリ来ル中間ヘ鳥目ニ百疋給

ル作法ナリ

一主人ヨリ拜領シタル馬御中間率テ参度氏
侍出テ請取夏本ナリ自身請取モ有取^其手
綱ヲ載キ申同輩ヨリ給フ氏ハ此方ノ中間出
テ請取也馬役ノ侍来レハ此方モ侍出テ請取
也

一鞞置馬掛御目事正面計見セ申法也所望ノ
一取ハ四方シモ見セ申ナリ
一鞞置馬進上御代替御成ノ時神馬智耳川出
物軍陣狩場等ノ遣フナリ塩手ノ四所ニ緒ヲ付
ル也口傳礼シ申氏ニ馬計ノ礼シ申也馬具ノ礼
シハ申サヌナリ

一祝言ノ馬ノ見ヤウ別儀ナシ退足シスヘカラス
面計掛御目左へ押廻レ入也其外ノ所ニ於望
各別也陣中ノ馬モ退ヌ也前へ進ハヨキナリ

一馬上ニテ腰ニ差タル策ヲ拔克^ト先右ノ手シ後へ廻大
指シ我身ニ添鞭先シ我前へ押廻シ拔之持
ヤウ如常猪シ手ニ拔ハヌナリ

一馬上へ策上ル又右上ルモ左取柄七八寸下シ腕
拔^ト持添右ニテ策先シ持上ル也左ヨリ上ルニ
右手ニ持左手ニテ馬ノ口シ取テ取柄シ前輪ノ
方へ出スナリ馬ニ不可見
一ハタセ馬ハタカ馬ト云詞馬ノ屋ヨリ鞆不置ニハ
出スシハタセ馬ト云主具タル馬ノ鞆取名ヲ裸馬

ト申合也

一主人馬ニ召ル、眩鏡ヲ可抱、左ニ廻リ馬ノ首本
ニ寄添、左手ニテカ革ヲ持、右手ニテ鏡ノ紋扶
間ヲ持也

一馬上ニテ、鷹匠ニ逢タラハ、我カ左ノ馬ヲ折退下
馬スヘシ、勿論、皆モ脱ヘシ、假令、鷹匠ハ、ハス、氏、接見

コルカ、餌袋ヲ付タル人ノ出来ラハ、下馬也

一馬エ、一、酒進ムル夏、鉈子ノ上ニ土器、据テ、手ハ

廻リテ、水附ヲ取、鉈子ヲ差上テ、土器ヲ取ラセ、可

申テ、手ヲ持レル人ニ、馬ノ手ヲ右ノ如ク、トラセ

申、御酒モ、一杯盛テ、ハカニ盛ヘシ、陣召候ハ、

又、鉈子ヲ差出シ、土器ヲ置セ、申ハシ

一馬上へち夫上ル又ち手ヨリ上ル品ニウ有左ヨリ
上レカクキ取ハ右ヨリモ上ルナリ口傳

一嫁入りノ供ニハ猿モ馬シる用鞆モ海ナレテ不

用響シキロフ也野影ハシ本トス

一旅宿ニテ亭ノ上ニ一馬ヲ遣ス取ハ敷キナカラ新

シ申一既ニテ遣ス也

一既ニ馬立ル夏春夏ハ賞殿ノ馬シロニ立ナリ

一秋冬ニ奥ニ立ル時モ女ナリ

一葬礼ノ供馬ノ夏舌ヲ能結テ嘶セヌヤウニ

スル也嘶ケハ跡シ門ト云凶事

一馬ノ焼印ヲ馬生ノカ子ト云定紋ノ印ト云目

結雀ノ事也是南部一ノ戸ヨリ出ル馬也高南

立ト云ハ仰モ違有ト心得レシ

一馬ヲ湯洗スル時ハ春ハ申付ハ多秋ハ寅冬ハ巳

方ハ向湯洗スハカラス向吉方ハ春ハ東南夏秋

西冬此是ツ吉トス

一馬屋灯ヲ燈明ト云ニ間ノ既ナレハ上旬ニハ春夏

ハ既ノコニ燈スレハ中旬ハ中也下旬ハ奥也秋冬

モ馬ノ立様ノ次第ヲ以テ心得レシ

一鞍拜領ハ前輪ノ東方ノ公ニ手ヲ添ヘ頂戴

スル也

一鑿拜領両手ニテ鳩胸ハ掛御礼申也戴キハセヌ也

一葬禮ノ時鞍ヲ舎人一後ニ置スル取ハ後輪

シ先ハレテ後スナリ常ニ前輪ヲ人ノ方ヘスル

吉札ナリ

一泥障の外に敷申取の乗方外にシカセ申也

一鞭の熊柙本ナリ長ク二尺七寸五分ナリ鷹ノ權ノ

尺ニモ爪ス短ノ定ニモ爪ク我手ノ定ナリ其内取

柄ノ分六寸ナリ緒通穴ヨリ上ノ長サ五分也

緒ノ長サ手一板入ス片手ノ入程ニ後ニトシテ西

方ノ緒ノ先ヲ締シテ鞭結ニスヘシ真草宝珠

形ナリ

一取柄ノ草ノ夏何草シモスル也其内獅子丸ニ重

ヘタル草ハ御免ナケレハセヌ也此紫モ上草也重

革通用ス緒ノ草モ取柄ノ草ト同草ニテスヘシ

取柄モ緒モ糸ニテ掛縫ニスヘシ何鞭ニモ取柄アル

カキ也

一竹根ノ莖節數シ半ニスル也先ツハ節ニツノ
間ニテ切ハシ如城スレハニ尺七寸二分レカトアリ
カタレサ取ハ五分三分ノ違ハ不苦也

一紫竹ノ策將軍家ニ御用故平人ハ持支ナラ

又也

一總鞭ノ支公方様御用故平士不用紫上紅次律

系下也近代平士モ通用ス

一御前ニテ馬場乗ノ支馬ヲ御前一引向貴人

馬トノ間ヲ不通馬ノ後ヨリ廻テ辛度馬ノ側ニ

差寄腹帯ニ強弱靴ナトノ堅サ後サツモ

見テ乗ヘト乗テハカサノ四寸六寸ヲ計ヒ手綱

シ左ニ仰ノ右手ニテ袴ノマキシ前ハ川取ト
ソト鞆直ラレテ手ノ上り下り口ノ差処ヲ察
レ顔持シトカヒト喉ノクホヒト人間指シ能伏
テ四寸ヲ用エ馬遇ルト思ハ、此方ノ心ツイヨ
ク、以テ静ニ遠山ヲ詠ル心ヲ持如何ニモ心ヲ
静ニ馬ノ両耳ノ間ヨリ先キ三向斗ヲ見ル心

シテ先地道ヲツツミミト五返モ三返モ打更ス
シ御前ハ参リ候ハ、初一返ノ時御前ノ方鐘
シ卒度踏外ス心得ナリ是ヲ鐘ノ礼ト云馬場
末ノ廻ス処ニテ貴人御座アル方ヲ後ニナラ
ヌ様ニタカイ違ハ棄也逸見武田方ハ馬場
メ本末尾ノ廻ス当流ハ馬場本ノ角ノ口ハ

順ニ廻シ末ハ逆ニ廻ス也是ハ嫡子庶子ノ家法ナリ
一主人御後鞞ニ乗ル時ハ鐘一寺ヲ掛テ乗也是
載ク心也馬 躑ヲキ拂品モスルナリ

一掛リノ内ニテ乗様先鞞垣ノ内ハ入借正面
ノ向ノ方ニ出御前ノ方ハ向ツテ如常ノ乗
四本掛ノ内ハ不入スレテ向ニテ一文字ニ三返計ナ

廻スヘシ皆本ヲ乗ヘシ望アラハ順ニ日廻シ又
三返乗ニテ本ノ如ク貴人ノ方ニ向ヒ乗納

一四季ヲ司ル木ヲ除乗ヤウハ夏春ハ櫻ヲ除其
外ノ三本ヲ順ニ三返ナリ廻シテ置ナリ夏ハ柗
秋ハ楓冬ハ松ナリ是ヲ除乗ヘシ皆松ナシ春ハ東

彼ハ南秋ハ西冬ハ比方シ除乘ヘシ又雪ノ朝ノ庭
乗カ当季ノ木シ除唯一返乗ナリサツト跡
シ御覧有ヘキ為ナリ

一神前通ル夏下馬シメ吉然モ供奉ノ取カ又馬
ツケスミトスルカ下馬成カタキ取ハ彼名左杏ヲ
取テ神前ノ方ノ鐘ヲ踏外シ礼ヲナシ可通也

又青目入タル鞆神前ニ社ノニ不用梨地ヲ本

トス

一褌馬ニ侍ハ乗ヌ物ナリ中間ノ役也主人ノ御所

望ハ各別ナリ

一策ヲ様ノ夏鞆シ上テ鞆先ニ目ヲ付也溜ル如
クニシテ虹形ニナモノナリ

一馬ノ尻ヲソ差ス物ヲ尺杖ト云ハ西レ尺指ト云
又横ニ当ニテ寸シ計ル物シ分不ト云ナリ

一馬ノ尺シ指ニカヘリ一寸ト云ハ西是シ尺ニ寸足不
云也

一馬尺シハ一寸ニ寸ニ寸四キ五キ七キト云也六キ八キ
九キト不謂也六寸シハ五キニ余ルハ八寸シハ七寸寸

尺又ハ七キニ余ル尺云也九寸シ七寸ニ寸尺云ナリ五尺
ノ馬ヲ長ノ馬ト云

一駒ト云ハ五歳迄ノ夏也サカナナイ馬ト云ハ駒ノ夏ニ
馬ア歳ニハ五歳ト以テ字ヨレト云リテハ姿ト

読セタリ馬ハ筭數ニテ歳ヲ知ル故也又馬ノハ
牧ニハ牝字惡シ是ハ牛ノ牧ナリ馬ニハ馬生ト

書カ能ナリ

一馬ノキ越ト云右又ハ馬ノ右ヲ云也左ノ方シ裏ト云也

一鬃切タル馬シ刈帽子ト云ハ悪シ唯カシ切タル馬ト云也又イカ鬃皮云也尖程ノヒタルハカ

ク鬃ト云也又大笠掛ニ刈帽子ヲ不用也人言

リテヤリ帽子ト云人アリ不謂支ナリ

一玃敷馬新馬登リ馬杯ト云テヨシ然モ新馬ト

云詞悪シ

一荒キ馬シカウハイ物ト云人存悪シ荒キ馬ト

ハカリ云カヨシ

一馬ノ走リ能ト云詞ヲ凶人存更ニ不苦詞ナリ

走カ能ナト、云ハ掛ノ夏ナリ

一足并トハ乗ニ移リテ其心得アルヘシ

一尾入りノ馬トハ末乗ノ不定馬ヲ云ナリ大馬

小馬ニ寄テ詞ノ替ル処ナリ故ニ一様ニ心得ヘカラ

一下路馬ト云夏大ニ限リテ云詞ナリ余ノ騎射ニ

テハ不謂皆一掛ニ能馬杯ト云ナリ下路馬ト云ハ

長ニ寸ノ馬ナリサレ凡人ニヨリテ二寸ハ過ル夏有

又二寸ハ六寸ノ夏アレハ一寸五分ヨキ也下路此ト

云ハ一寸二寸之馬ノ夏也

一鑿ハ抱ハルト云押ハルトハ不謂也但主人馬ニ召

トキノ夏也

一洗曹ヲ指ハ曹尾也

一切付肥附ハ一掛尾一背尾云々一〇尾云也

一鞆モ一背一掛一〇ト云

一不浮鞆ヲ白鞆トハ不謂地ノ鞆尾深^深夕押掛云

一鼻尾ト云詞ハ悪シ鼻ヒ子リト申カ吉

一血ヲ取取ハ臥セ起シト申也繩解申リ繩ヲ

ハキト云也

一鞆置シ收帯ナトメ直ス又シハ堅メ直スト云也

一押懸鞆シハ仕掛ルト云ナリ

一手綱ヲハ刺取ト云カ又解ホトクト申スモ不若

一手綱モ刺ト云テ綱ノ抜タルハツホ^抜後ト云テ綱

ハヨルト云也收帯ハ疊ト云也

一手綱ノ寸七尺五寸也但馬ノ長ニヨル

一腹帯ノ寸八尺五寸也但馬ニヨリ少ノ違ハ不若
二重腹帯ハ一丈六尺也軍ニ用ユ又サカナヒ馬
杯ノ背ノ丸キ腹帯一重ヲ廣ケテ共ニ鞞
ヲ置キ鞞不返シテ吉又中一尺計ヲ縫テツハ
ナノ穂ヲ入ル是モ有背シトフヌ也

一手綱ノ尺三尋半ニスヘレニ尺三尺ハ馬ヨリ尋
ルヘシ

一馬指ノ菱物ヒテ四尺五寸ニシテ中ヲ二割シ五尺ニ
スル是ハ尾袋也何ニテモ紋ヲ付ヘレ五町也
一馬屋ノ廣サ七尺五寸板敷ニ枚半ノ物也
一尺差ノ菱長サ五尺廣サ二寸厚サ六分也其内四尺
ヨリ上ノ寸ヲ以ニ寸三寸四キ五キトハ定ル也

一請柄杓ノ夏口ノ差後八寸二分柄ノ長五尺也馬場中ニテ取シウケル柄杓也

一髮鉄ノ寸九寸通用也

一裏彫ハ四寸シテ言ノ角木也小俣シ置ヘシ

一馬櫛ハ齒數五七九ニ作ル長サ九寸二分以内齒ノ

方四寸持方五寸二分緒付幅廣サ四寸ナリ

一瓜形槌ノ夏九寸シ用包其内持方七寸頭二寸有

同切口差後二寸ナリ

一瓜形刀ノ事カノ方六寸柄七寸ニスルナリ

一撫竹ノ夏二尺七寸也節數三ツノ右割ヤウハ大

竹ヲ四ツ割ニシテ内ノ節ヲ如何ニモ能取テスヘ

シ外ヲ赤漆ニテ塗ヘシ内ヲ黒ノ塗也撫竹トハ

常ニツカフヲ云ナリ

一ハタケ竹ノ寸ハ二尺五寸ニ切レ切揃ノ夏右ニ同シ是ハ湯洗スル取用也

一ナテ甚葉之夏一尺二寸也常ニ遣フ也

一湯洗ノ取遣フハ九寸ヲ用ル也

一馬屋ノ道具ト云ハ馬盤桶梅竹也

一分木ノ夏長サ一尺五寸廣サ五分厚サ三分ナル也

一腹帯馬緒ノ夏長サ四丈ノ緒ヲ以テス上ノ左ニ

カレ付ニ通シテ高くトスル也左右纏也上卷敷

五ツツカツ迄也

一言杖ノ事ハ六尺五寸也木ハ阿膠木本也其外ノ木ニ

テモスル是ハ略也

一 秋冬ノ四季ヲニウ分ケテ馬ノ立所替ルナシハ

一 又心得ニテ既見物アルハ

一 移乗ト云ハ付スベシノ馬ニ乗替ル有ナリ

一 紅梅月毛 黃月毛ト云ハ不謂詞也 白月毛 黒月

一 毛カシ月毛ト云也 白河原毛 黒河原毛 黃河

一 原毛 鴨河原毛 凡云其外ハ如何也 馬喰ノ詞ニ

一 鶴月毛 杯云ハ悪シ

一 俗ニアレカフチトハ不謂草毛 駁ト云也

一 二毛 猿毛ト云事ニ付秘傳有是ニ心得ア

一 ルハキ夏也 婚礼ニ不用也

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the right page of an open book. The characters are dense and difficult to decipher due to the cursive style and fading. The text appears to be organized into several lines, possibly representing a list or a series of entries. The left page of the book is blank.

